

第二十七回（株）USEN 番組審議会 議事録

開催日時：平成 21 年 5 月 29 日 13：00～  
開催場所：（株）USEN ミッドタウンタワー33F  
F07 会議室

出席者 委員：小林亜星、有馬祐行、山本武司、湯川れい子、富澤一誠（順不同・敬称略）  
放送局側：5 名

議事内容

1. 会社動向、放送事業についての報告
2. 番組課題  
I-09「J-POP ボサノヴァ BGM」について
3. 番組審議

【放送局】

制作サイドとしては、以下のようなチャンネル作りを行っている。

- (1) 幅広い世代に聞いてもらえる適度なリズム感
- (2) 20 代以上をターゲットとしながら Around 40 世代にも受け入れられる新旧 J-POP を選曲
- (3) ミドルテンポを中心に、BGM 性の高いアレンジを施し、全楽曲自社レコーディングにて制作

【審議委員】

ヴァイオリン、フルートの演奏者が、ボサノヴァをよく理解していないように思える。メロディーの抑揚のつけ方がボサノヴァ的とは言えない。リズム隊の音量も小さく感じる。お洒落好きで上質な物を求める 20 代～40 代の女性に受け入れられるよう、ブラッシュアップが必要ではないか？

【審議委員】

ボサノヴァはもともと複雑で高度な音楽。ボサノヴァ・アレンジがマッチする曲とマッチしない曲があるので、選曲は慎重に行うべき。

【審議委員】

メロディー楽器がヴァイオリン、アコーディオンでは、ボサノヴァらしさが出ない場合が多い。メロディー楽器の選択を再考する必要もあるのでは。

【審議委員】

お洒落好きな人をターゲットにしながら、程よい上質感の音楽で購買欲を煽るという狙いは良いが、ターゲットに対して訴求する音楽を作らなくてはいけない。

【放送局】

食料品売り場での買い物客向けとして広く採用されているという面もあり、そういったターゲット向けの新たなジャンルと割り切ってブラッシュアップすることも必要か。

**【審議委員】**

Around 40 世代は、「お洒落な人」というよりは「お洒落になりたい人」。憧れを喚起しなければならない。

**【放送局】**

それぞれのジャンルを得意とするスタジオミュージシャンを十分に確保することも重要だろう。

**【審議委員】**

ボサノヴァの場合、ボサノヴァを専門にやっているミュージシャンを確保できないケースもあるだろう。そういう場合は、クラシック畑のミュージシャンよりもジャズ畑のミュージシャンの方がフィットするだろう。

**【審議委員】**

楽曲オリジナル制作におけるサウンド・プロデューサー、サウンド・クリエイターを1人立て、クオリティ、コンセプトの基準を作るべきではないか。力量のあるサウンド・プロデューサーは良いスタジオ・ミュージシャンとのつながりも強い。

**【審議委員】**

「スタジオ USEN の曲が聴きたい」と今以上に評価されるために、更なるクオリティアップと選曲基準などの改良を目指してほしい。